

日々新聞

第九一第

彫政七

月夜半金
 との抜けた文々
 の尻うらまは順慶町四目要嘉らら
 袋物斎多るが發明製造の品小思く有て吾人の大金
 可求め美寂中明治八月七日の出来に其家類焼して去藏と
 此大金のみ跡を残るが板尻して置し翌八日の夜急ぎ来る者
 有り番の僕伺ふ大金小手をひてアツとのりて取る得き迎ふる事
 三夜及ぶのちもろと空しく立去る跡
 考考る小此家山炭團を流し買此
 釜山盛小貯置が出入の爲小火と
 るり上あり灰子多り底小伏を有る小
 ちが付らるる盛金事を任事する是や郭巨ら
 孫の十六日の元者場やの番頭終小所者前
 の未葉多ると新聞紙小変交せり



小信政辰
 善の信金

信政様

